



支部会員のみなさんへ

事務局長 小島 彬

昨年滋賀支部では、8月1日に大津市で原水爆禁止世界大会に連帯した「原水爆禁止世界科学者集会」を、京都、大阪、兵庫支部の協力をえて行い、当初の予想をはるかに上回る164名の参加者をえて、大成功に終わりました。この内容は「日本の科学者」の12月号に掲載されているので、読んでいただいていることと思います。

また支部内に原子力災害専門委員会を立上げ、滋賀県の「地域防災計画(原子力災害対策編)」の検討を行い、数度にわたって県への申入れや記者会見を行いました。さらに土壌汚染が専門の会員が、市民とともに産廃や震災ガレキの県内への持込みを断念させるなど、科学者会議の滋賀支部の活動が活発に展開され、広く県民の利益に寄与しています。このような滋賀支部の活動の活性化をもたらしたのは、他支部から転入をされた数名の会員を幹事に迎えたことが大きな要因です。

しかしながら、それらの活動を伝える支部ニュースの発行が、体制の不備で機能せず、1年余りも滞ってご迷惑をお掛けしましたが、ようやくその体制を立て直しつつあり、第19号をお届けできるようになりました。

話は変わりますが、滋賀支部は全国で23番目の支部として1966年8月21日に設立され、創立当初の会員数は約30名だという記録が全国事務局に残っており、最近全国事務局から教えていただきました。支部規約も定められていましたが、例えば支部総会の成立要件などが次第に守られなくなって「自然消滅」した形になっていて現会員は知らないため、皆さんご承知のように現在の支部の状況にあった規約を最近決めました。会費の郵便振替などで、最近郵便局が支部の所在地などを規約に定めるように、要請してきていますので、次の支部総会ではそれらの整合をはかるために、若干の規約改正を行いたいと考えています。

ところで先の衆議院選挙では、民意を全く反映しない小選挙区制のために、虚構の「多数党」が政権をとり、憲法改悪、オスプレイの国内配備、TPP参加、原発再

稼働、社会保障の改悪、消費税増税、公共事業への大判振る舞い、教育の改悪など様々企んでいます、多数の国民の利益に合わないことが、誰の目にも明らかになりつつあります。

法人化された大学はどこも「成果」を求められ、科学者会議滋賀支部の大学分会では、活動を行う時間的なゆとりがなくなっている状況になっていますが、上のような様々な問題に対して、幅広い科学者を結集した日本科学者会議ならではの役割を、国民や県民は期待していることを確信して、今年もその要請に応じて活動したいと思えます。

今後の予定

- 個人会員分会第4回総会・公開講演会
2月23日(土) 13時半～
於 草津市民交流プラザ小会議室2
(フェリエ南草津5階)
- 第6回幹事会 3月16日(土) 14時～
於 滋賀大・大津サテライトルーム
- 支部総会、講演学習会 5月18日(土)



公開講演会のご案内

「植物工場による福島農業再生の試み」

下記の要領で JSA 滋賀支部主催による公開講演会「植物工場による福島農業再生の試み」が開催されます。ふるってご参加ください。

記

日時:2013年2月23日(土)15:00～17:00
会場:草津市民交流プラザ(小会議室2)
JR南草津駅東口フェリエ南草津5F
講師:竹葉 剛
(元京都府立大学学長・JSA 滋賀支部会員)

放射能汚染された土地でいかに農業を再生するか、一緒に考えましょう!
*終了後に講師を囲んで懇親会を行います



原発ゼロをめざす 日本科学者会議 3・20 討論集会

「原発ゼロをめざす科学者運動の課題」

下記の要領で JSA 近畿地区「原発ゼロをめざす日本科学者会議討論集会」実行委員会主催による討論集会が開催されます。ふるってご参加ください。

記

日時：2013年3月20日（祝）10:00～16:30

場所：龍谷大学深草学舎 22号館 102教室

プログラム

- 午前の部 司会 細川 孝（京都支部）
- 10:00 開会あいさつ 富田道男（京都支部）
- 10:05 高岡 滋（熊本支部）放射線被曝リスク解明の科学：公衆衛生学
- 10:20 矢ヶ崎克馬（沖縄支部）フクシマに見る被曝の隠ぺい—特に汚染の過少評価について—
- 10:35 宗川吉汪（京都支部）20ミリシーベルトは本当に安全か
- 10:50 畑 明郎（滋賀支部）放射能除染対策の問題点
- 11:15 富田道男（京都支部）原発廃炉と使用済み核燃料の保管
- 11:30 小林芳正（京都支部）放射性廃棄物の地層処分をめぐる諸問題
- 11:45 中須賀徳行（岐阜支部）国際放射線防護委員会（ICRP）と国際原子カムラ
- 12:00 今岡良子（大阪支部）モンゴル国におけるウラン鉱山開発、原子力発電所建設、核廃棄物処分場問題と我々
- 午後の部 司会 小島 彬（滋賀支部）
- 13:15 後藤隆雄（兵庫支部）日本の安全基盤の急速な悪化と原発ゼロへの課題
- 13:30 志岐常正（京都支部）原発問題の基礎としての日本国土の条件—とくに近畿の自然条件とその調査問題を中心に—
- 13:45 真鍋能章（京都支部）リアリズムとユートピアニズム
- 14:00 増田善信（東京支部）「即時原発ゼロ」への8つの条件

14:15 亀井成美（京都支部）科学を武器に、市民運動の発展を

14:30 野口 宏（滋賀支部）脱原発の市民運動の新たな展開と今後の課題

15:00 総合討論 司会 今岡良子（大阪支部）

16:25 閉会あいさつ 畑 明郎（滋賀支部）

*

新入会員の紹介コーナー

昨年春、入会いただいた Tax Analyst（ペンネーム）さんに自己紹介をお願いしました。

入会にあたって

2011年に、日本科学者会議（滋賀支部）に入会させて頂きました。自身は、現在、短期大学で、講師として勤務させて頂いています。講義は、租税論・簿記などを担当しています。研究では、自身の専門分野である租税論の中でも、とりわけ、所得・消費・資産への応能税に焦点を当てて研究しています。以上のような研究教育活動をしている中で、より広い視点から租税というものを研究しなければならない、といった考えを抱くようになり、多様な専門の方が会員として活動されている日本科学者会議に入会させて頂こう、ということになりました。実際にこの会議に入会してみると、精力的に活動——とりわけ東日本大震災関係——をされている会員の方々に刺激を受けるばかりでして、自身も、より実際の意義のある租税研究のため、大災害と税制といった現代社会にとって重要なテーマに関し、より広い視点から、より積極的に考察していかなければならない、と考えるようになりました。こうしたことを考えますと、当該会議に入会したことは、自身の今後の研究にとって非常に有意義なことだと考えられます。これまで以上に活動的に租税研究をしていこうと考えていますので、今後ともよろしくお願いします。

研究以外では、当該会議滋賀支部の会計を担当させて頂くことが決まった、ということを紹介させて頂かなければなりません。日本科学者会議の詳細についてはあまり知らない状況ですので、正直なところ、これについては驚きを隠せません。しかし、会費処理、大会会計処理、などの経験を積み、的確かつ迅速な滋賀支部関係の会計処理に向けて、精一杯尽力させて頂こうかと考えています。こうした役割について、まだ不慣れな面がありますが、是非よろしくお願いします。